



佐々木中学校だより

教育目標

よく考え、進んで
実践する生徒

E-mail sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp

電話 0254 (27) 2505

「日々、自分超え」

自ら行動し、自分の道を開く

新年の決意を胸に置き、生徒たちが3学期の学校生活に取り組み始めました。月日の過ぎる早さに負けないように、平成30年も佐々木中学校の教育活動の充実に向けて、生徒と教職員とが一緒になって学校生活を盛り上げていきます。保護者の皆さん、地域の皆さん、今年も中学校の様々な教育活動へのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



大雪のグラウンドで練習に励む陸上部員

さて、今年は、2月9日から韓国で平昌冬季五輪(ピョンチャンオリンピック)が開催されます。また、サッカーワールドカップ(W杯)はロシア大会が6月に、夏の全国高等学校野球選手権大会は100回目の記念大会が開催されます。スポーツへの興味・感心が高い人には楽しい1年です。

平昌オリンピックで日本選手団の主将を務めるスピードスケート選手の小平奈緒(こだいらなお)さんは、ノルディックスキージャンプの高梨沙羅さんやフィギュアスケートの羽生結弦さんと並んで、冬季五輪で金メダル獲得が期待される選手の一人です。国内外の500メートルのレースで昨シーズンから24連勝、1,000メートルでも昨年12月のワールドカップで初優勝し、世界新記録を樹立したことは、記憶に新しいニュースです。

小平選手は、これまで、バンクーバー(2010)とソチ(2014)の二度のオリンピックに出場しましたが、個人種目でのメダルの獲得はならず、ソチ五輪後、自分の心と技を磨くためにオランダに、単身渡ります。2年間、慣れない世界で生活しながら練習を積むことで、自分の弱さが見え、自分を客観視できるようになり、さらに、自立した選手としての自信が生まれたそうです。小平選手は次のように語っています。



今年最初の佐中サーキット

「ビザの取得にたった一人で移民局にも行きました。2回、3回と通ううちに、オランダ語で話せるようになりました。自分で行動しないと、自分の道を開いていけないことを学びました。」

過去二度の五輪では、周囲の声や期待が気になって、「日本代表としてがんばらなければならない」という重圧で自分を見失ってしまい、集中力を欠き、実力を発揮できなかったとの反省の上に立ち、2年間のオランダ留学を終えた後、2017年世界距離別選手権500メートルを初制覇し、快進撃が始まります。今は「負ける怖さはない」と言います。

「実力を出し合うことが勝負。それを示すのがオリンピックやワールドカップ。自分が実力を出し切っていたのであれば、結果が2位であっても、それがそれ以上ない自分の結果。負けることへの怖さはない。ライバルは、オリンピック3連覇を狙う韓国の選手ではなく、どこまでも自分自身です。」

厳しい練習に裏打ちされた自信と、鍛え上げたメンタル面の強さを感じるこの言葉です。

小平選手のモットーである「日々、自分超え」を見習って、私たちも今日の自分よりも明日の自分の成長を目指して、今年も学習に部活動に、そして学校生活に目標をもって取り組みましょう。

日々勉強に励む3年生 「ガンバレ！」

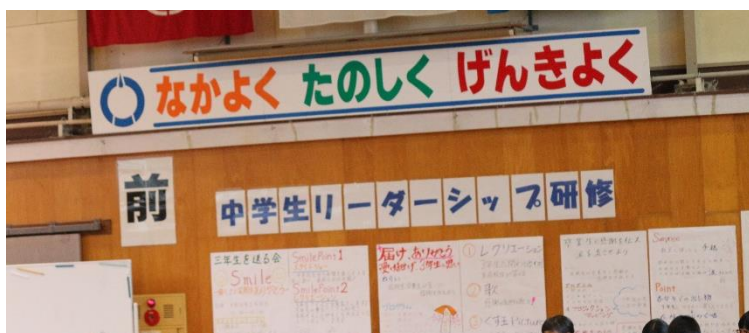


生徒会役員がリーダー研修会に参加しました

12月25日（月）26日（火）の2日間、生徒会役員に選出された2年生4名が、新潟県少年自然の家（胎内市乙）での「中学生リーダーシップ研修」に参加しました。県内の他の中学校生徒会リーダーとの一泊二日の研修を通して、どんなことを体験し、何を学んできたかを振り返ってもらいました。

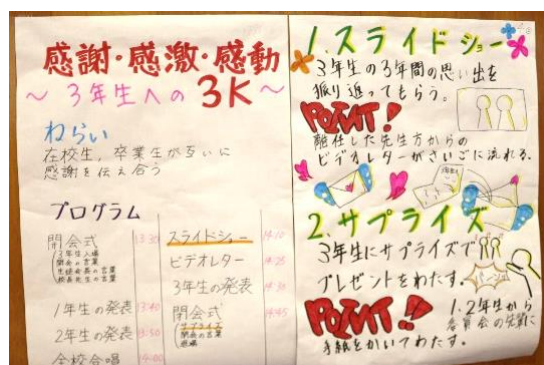
生徒会会長 2年 S

今回リーダーシップ研修会に参加して、多くのことを学ぶことが出来ました。特に、演習の1つの「三送会」の計画では、他中学校の生徒会リーダーと様々な活動について意見交換することができて良かったです。また、今回の研修会では、自分にはまだ積極性が足りないと感じました。これから一つ一つの生徒会活動を通して、自分の積極性を改善していきたいと思いました。今回学んだことを生かし、佐々木中学校生徒会がよりよくなるようにしていきます。



生徒会副会長 2年 F

今回リーダーシップ研修会に参加して、「肉まんの中身」や「三送会の企画」といった演習で、様々なことを話し合いました。研修を通じて感じたことは、他校の生徒会リーダーの積極性です。プレゼンをする時には、周りで見ているや聞いている人を楽しませることをどんどんやっていたり、意見を求められた時には挙手をあたり前のようにやっていたりして、とても驚きました。私は、今回の研修会で、改めて「積極性」の大切さを感じました。これからの生徒会活動では、積極的に新しいことを取り入れていきたいです。



生徒会副会長 2年 T

リーダーシップ研修会に参加してみて、最初はとても緊張しましたが、初めのアイスブレイキングの交流で緊張した体と気持ちがほぐれました。企画を考えたり、企画をするための準備に取り組んだり、企画したことを他のグループに発表したり、様々な活動に他の中学校の生徒会リーダーと取り組みました。勉強になることがとても多くて、有意義な時間を過ごすことができました。今回学んだことを生かして、頑張っていきたいです。



生徒会応援団長 2年 W

研修会の最初に行ったアイスブレイキングのおかげで緊張がやわらぎました。アイスブレイキングの後の小グループで企画を作成する活動からは、楽しく取り組むことができました。他の中学校の生徒会リーダーの人たちの中には、楽しい雰囲気を作るのが上手な人や何事にも積極的に取り組もうという意欲のある人がたくさんいました。とても刺激を受けました。佐中の生徒会活動でも、全校生徒が交流するアイスブレイキングの活動を増やしたり、研修会で学んだ意見のまとめ方の手法を実践したりしていきたいです。



体力・運動能力テストで全校生徒の4割以上が A 評価でした

毎年春に、全国の小中学校で、児童生徒の体力・運動能力を測定する「体力テスト」が実施されます。中学生を対象とした調査では、「握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ」の8種目で実技調査が行われており、8種目の合計値が、総合評価標準の一定の基準（学年ごと）以上に達した生徒は「A 段階」と認定され、新潟県教育委員会から「トキめき体力づくり認定証」が授与されます。

佐々木中学校では、全校生徒65名中の27名（約41パーセント）が「認定証」を授与されました。女子の結果に限ると、在籍女子生徒全体の約62パーセント（3年生女子は100%）に認定証が授与されるという素晴らしい結果でした。この結果を平成30年度につなげていきましょう。

	1 年	2 年	3 年
男子	1 名	1 名	3 名
女子	7 名	6 名	9 名
計	8 名	7 名	12 名



3年女子 S 毎日の部活動と毎週月曜日の佐中サーキットに全校生徒が一生懸命取り組んでいるので、体力がついていると思います。今年の体力テスト結果を見ると、校内の歴代の記録が新たに塗り替えられた「歴代新記録」もたくさん出ていて素晴らしいと思います。

3年女子 I 同じクラスの仲間と3年間、互いにライバル心を持ちながら、タイムや記録を競い合ってきたので、それが好結果となって表れたと思います。佐々木中は小規模の学校です、その分一人一人の体力実態に目が行き届きやすく、アドバイスも聞きやすいので、それが体力の伸びにつながったと思います。

3年男子 G 男子は女子の結果と比べて柔軟性に課題がある人が多く、そのため体力テスト数値が伸びていないのがもったいない。3年間「A 段階」と認定されるためには、自分の体力数値と全国平均値とをときどき意識しながらトレーニングに励むと良いと思います。

佐々木中学校の「健康・体力向上」への取組 体育主任

佐々木中学校では様々な機会を通して、生徒の心と体を鍛えています。5月に22キロのウォークラリーを行っています。生徒は友人と励まし合いながら、早い生徒で4時間、最後の方にゴールする生徒は約8時間をかけて行程を歩き通す行事です。9月の体育祭では、学級対抗の長縄跳びや、全校生徒が2軍に分かれての全員リレーを採り入れて体力アップに励んでいます。また、体育祭のフィナーレでは全校生徒による集団行動「巴」を、保護者や地域の方に披露します。昨年度から始めた全校サーキットトレーニングは、定期的に放課後に実施し、着実な体力アップにつながっています。健康・体力向上への取組を通して、日常のあいさつや清掃活動にもきびきびとした行動が表れ、それが、授業に積極的に取り組む学習姿勢や明るく快活な学校生活づくりの実現につながっています。

人権週間に各クラスで同和教育に取り組みました

毎年12月4日から10日までの1週間を、法務省等が「人権週間」と定めています。今年度の人権週間の重点目標には「考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心」という言葉がありました。佐々木中学校でも、12月から1月にかけて、各クラスで、「生きるIV」（新潟県同和教育研究協議会発行）を用いた人権教育を通して、全校生徒が「思いやりの心」や「かけがえない命」などについて考える時間を設けています。

今年度は、1年生では「人の値打ち ～江口いとさんの半生～」、2年生では「教科書がほしい ～高知・長浜の教科書無償闘争をめぐって～」、3年生では「就職差別をなくすために～ある青年の手記より～」を読みながら、学習を深めました。

《1年生の「道徳ノート」の記述から》

男子 YH なぜこの世には「差別」という言葉が存在するのでしょうか。僕は皆楽しく、協力して過ごしたいです。

男子 YK たとえば、ちょっと服装が違っていても、陰でその人のことを話したりすることは差別につながりかねないことなので、たとえ他と違うところがあったとしても、そういった人とも、みんなと同じように付き合っていかなければならないと思いました。

男子 IN 江口いとさんの生き方を読み、差別をなくしたいという気持ちが分かりました。時代はどんどん変わっていきませんが、差別をなくすという気持ちでいたいです。

女子 M 「差別」 嫌いな言葉です。江口いとさんは、大変な時代を生きてきたのに、差別と戦うなんて、強い心、強い思いがなかったらできないことです。

男子 SY 人の値打ちを、僕も外見で判断してしまいがちなことがあると思いました。外見だけで判断しないことは簡単にできそうで、難しいことだけど、誰かのことを、その人のことをよく知らないうちに決めつけないようにしていきます。

女子 KR 私たちがただ聞き流してしまっている「差別」という問題に、江口いとさんが立ち向かっていくことを知りました。私たちも、差別につながるような行動をとらないようにするべきだと思いました。

女子 WR 差別をなくそうとしている人はたくさんいるはずですが。そんな人がもっとも増えていけばいいのになと思います。人によく見られたいと思う人は、外見よりも、まずは内面を磨いていくほうがいいと思います。

女子 GS 今回の授業で、差別ということが私たちの身近でも起こり得ることにおどろきました。ニュースなどでは見たことがあったけど、差別はまだあまりなくなっていないんだと感じました。差別をなくすためには、誰とでも同じ態度で接し、内面に目を向けていかなければならないのだと感じました。

《2年生の「道徳ノート」の記述から》

女子 KS 今、教科書が無償で配布されているのは、昔生活が苦しかった時代の人たちが闘って



くれたおかげなんだと分かりました。今まであまり考えずに教科書を使っていたけど、今回の授業を受けて、教科書を大切に使いようと思いました。

男子 IT 教科書は税金によって無償で使うことができていたことは知っていたけれど、教科書が無償になったのは、昔のことではなくて、たった50年前くらいの出来事だと知って驚きました。これからは、教科書をしっかりと使って勉強しようと思いました。

男子 WH 今回の授業で考えたことは、教科書が無償でなかった時代の人たちの気持ちです。とても悲しくて、つらかっただろうなと思いました。そして、今も、教科書が無償で与えられないような時代が続いていたとしたら、僕は教科書がほしいと思っていたと思います。だから、今の環境に感謝したいと考えました。

女子 NA 教科書がすべて無償であることは知っていたけれど、そうではなかった時代があることに驚きました。憲法第26条に「義務教育は、これを無償とする」とあるのに、なぜそうでなかったのかがとても気になります。これからは教科書を大事にしていきたいです。

女子 SK 教科書が無償提供されているというのは、国民全てが納めている税金のおかげで、それがあ

るから私たちがしっかり勉強できているし、そのことに感謝しながら勉強したいと思いました。

《3年生の「道徳ノート」の記述から》

女子 HS 「就職差別」という言葉を今回の授業で初めて知りました。以前の調査表では、プライバシーの保護について少しも配慮されていないと思いました。

男子 YR 現在でも差別はなくなりません。障害者への差別、人種による差別などは今も世界のどこかで起きています。昔の調査表を見ると、疑問に思う部分がたくさんありました。僕は、紙に書いてあることで人を判断するのではなく、言葉や行動など全ての部分で人を見ていけるようになりたいです。

女子 SM 今回の授業で「就職差別」について学んで、居住地や障害の有無、男女の違いなどで差別されるのはおかしいと思いました。一人一人を大切にしていこうという気持ちを、改めて感じました。いろいろな人がいるけれど、平等に接していかなければならないことをたくさんの人に理解してもらいたいと思いました。差別を無くしたいと思いました。

女子 YR もし自分だけでなく周りの人が差別されている場面があれば、ちゃんと「ダメ」「間違っている」と言える大人になりたいと思いました。

女子 IA 「これおかしくない？」とか「差別じゃない？」と誰か1人でも思い始めたり、声に出したりすることが、周りの人も「私もそう思う」と言うことになり、差別がなくなると思います。今回の就職差別についての学習のように、「人権」や「差別」について考えることは大切なことだと感じました。



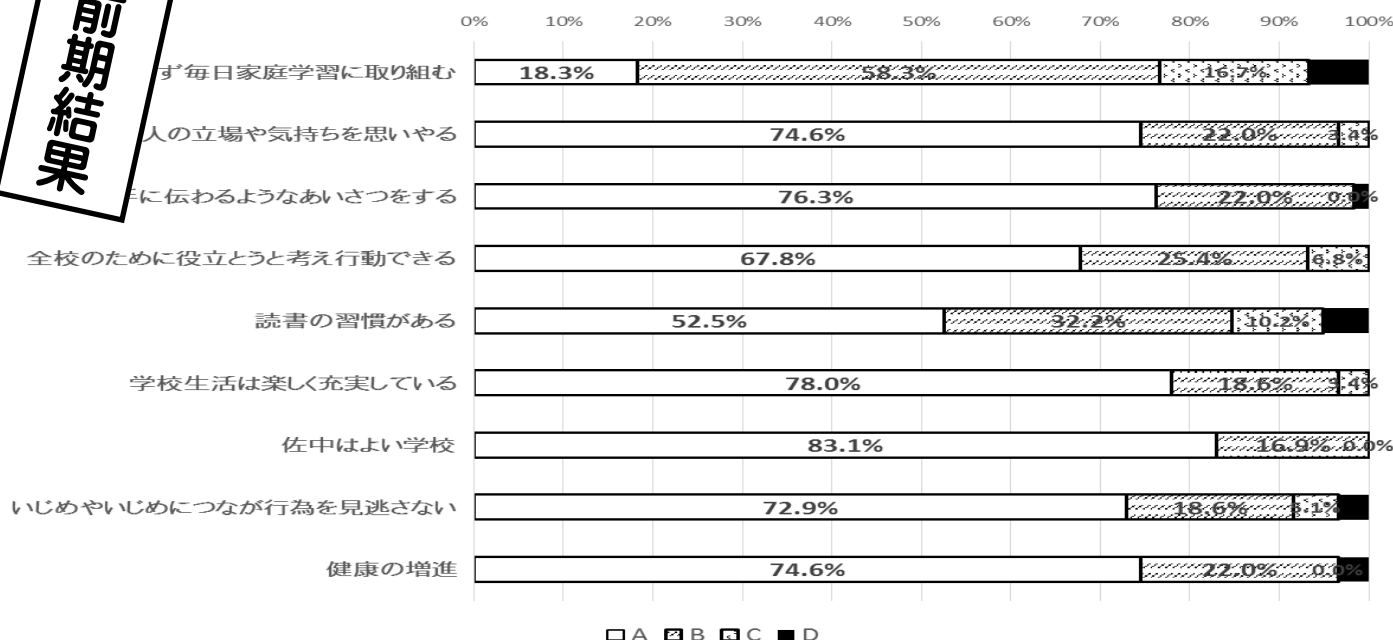
前期学校評価から① 保護者と生徒の回答の比較

佐々木中学校では、年2回（前期：7月、後期：12月）の学校評価を実施し、教育活動や学校運営の改善に役立てています。7月に実施した「前期学校評価」の結果を、保護者と生徒を対象に行った評価の結果をお知らせします。前期評価結果のページは、学校だより第9号（8月29日発行）に掲載したものと同じです。

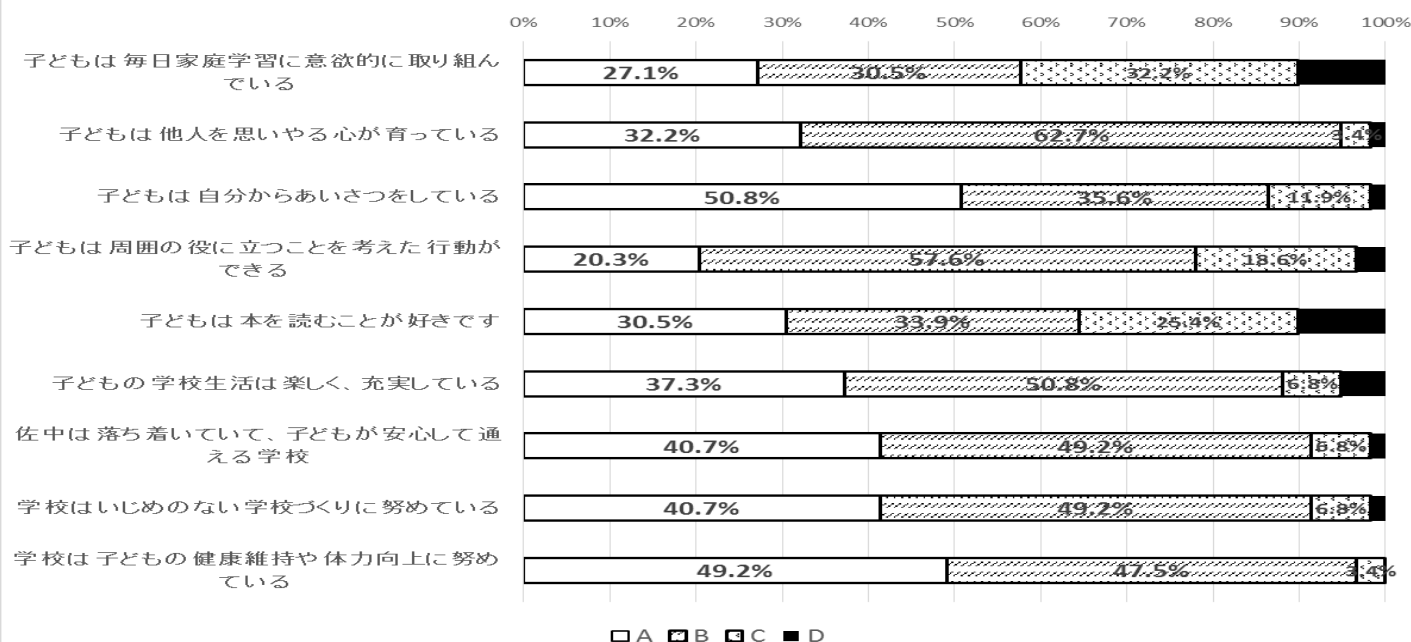
生徒と保護者の回答を比較できるように、ほぼ同じ項目を同じ項目を同じ順番で並べました。

前期
結果

平成29年度前期学校評価から（生徒の回答）



平成29年度前期学校評価から（保護者の回答）



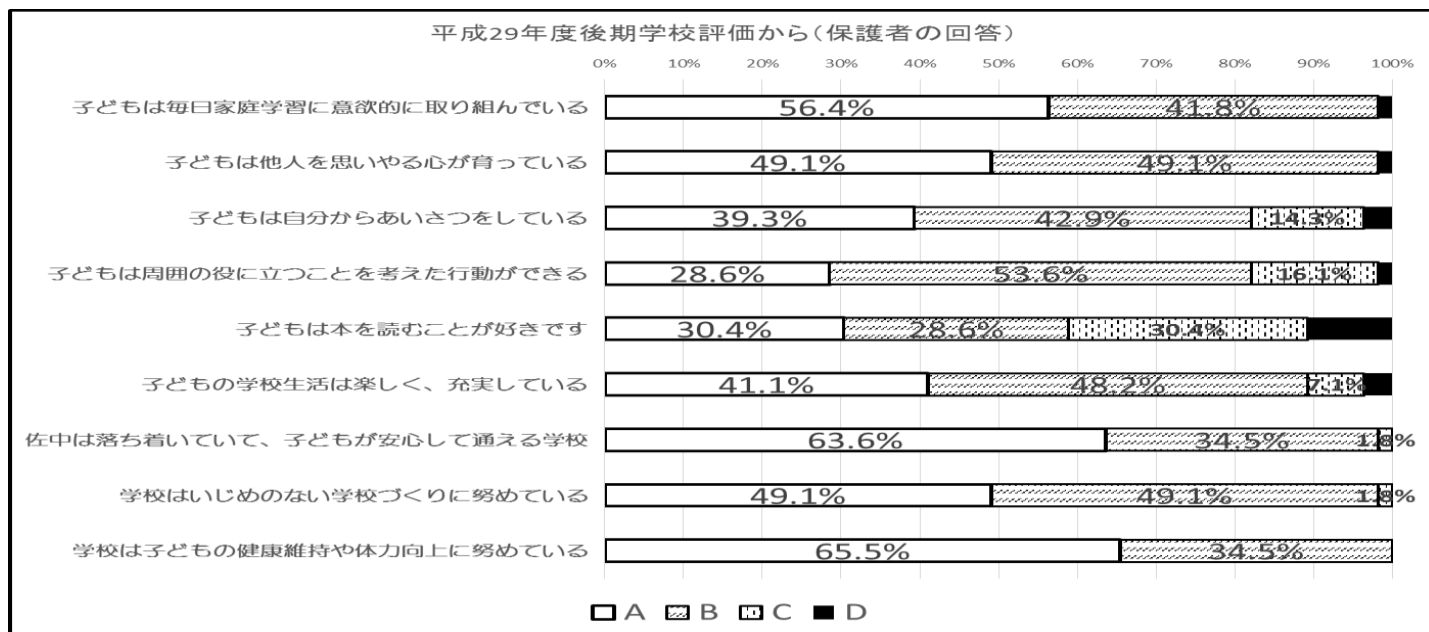
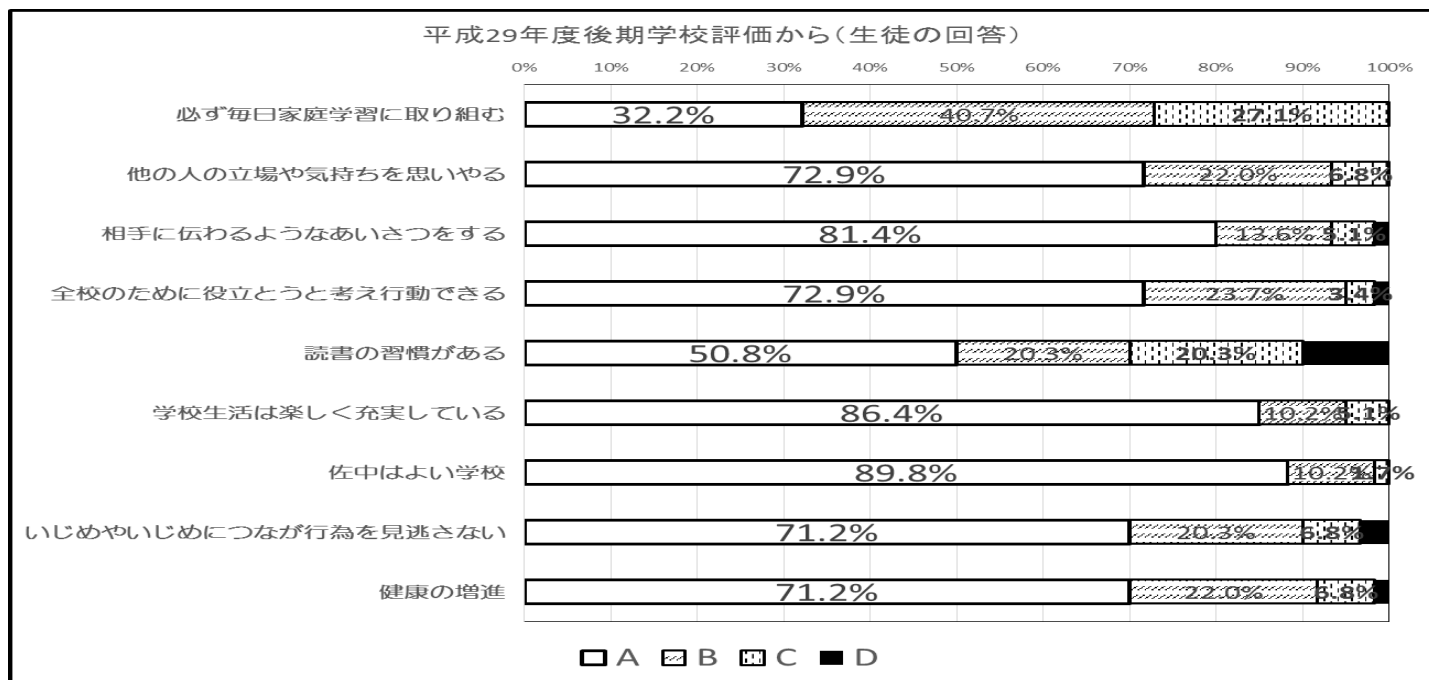
生徒の回答で肯定的評価の割合が高かったのは、「佐中はよい学校である」と「学校生活は楽しく充実している」でした。保護者の回答では、「子どもは自分からあいさつしている」と「学校は子どもの健康維持や体力向上に努めている」が好評価でした。

一方で、生徒の回答からは、「毎日の家庭学習習慣」と「読書の習慣」が他の項目と比べると、肯定割合が低いことが分かります。保護者の回答からは、「子どもは周囲の役に立つことを考えた行動ができる」の肯定割合が低く、A評価とB評価の合計で見ると、生徒の回答と同じように、「家庭学習」と「読書習慣」の2項目が一番低い結果となりました。

後期学校評価から① 保護者と生徒の回答の比較

保護者の皆さんから、昨年12月の「学校評価」にご協力をいただきありがとうございました。年2回（前期：7月、後期：12月）学校評価を実施しており、結果を参考にしながら、日々の教育活動の充実や学校運営の改善に役立てています。

生徒と保護者の回答を比較できるように、ほぼ同じことを問う項目を同じ順番で並べました。



前期も肯定的評価が高かった、生徒による「佐中はよい学校である」と「学校生活は楽しく充実している」の回答が、後期にさらに高い数値を表しました。保護者の回答では、「健康維持や体力向上」と「安心して通える学校」の肯定的評価が前期と比べて大きな伸びを示しました。

保護者・生徒両方で、「毎日学習に取り組む」や「他の役に立つことを考えた行動」で、前期よりもよい評価結果となり、生徒の家庭学習に取り組む習慣が定着してきたことが分かります。

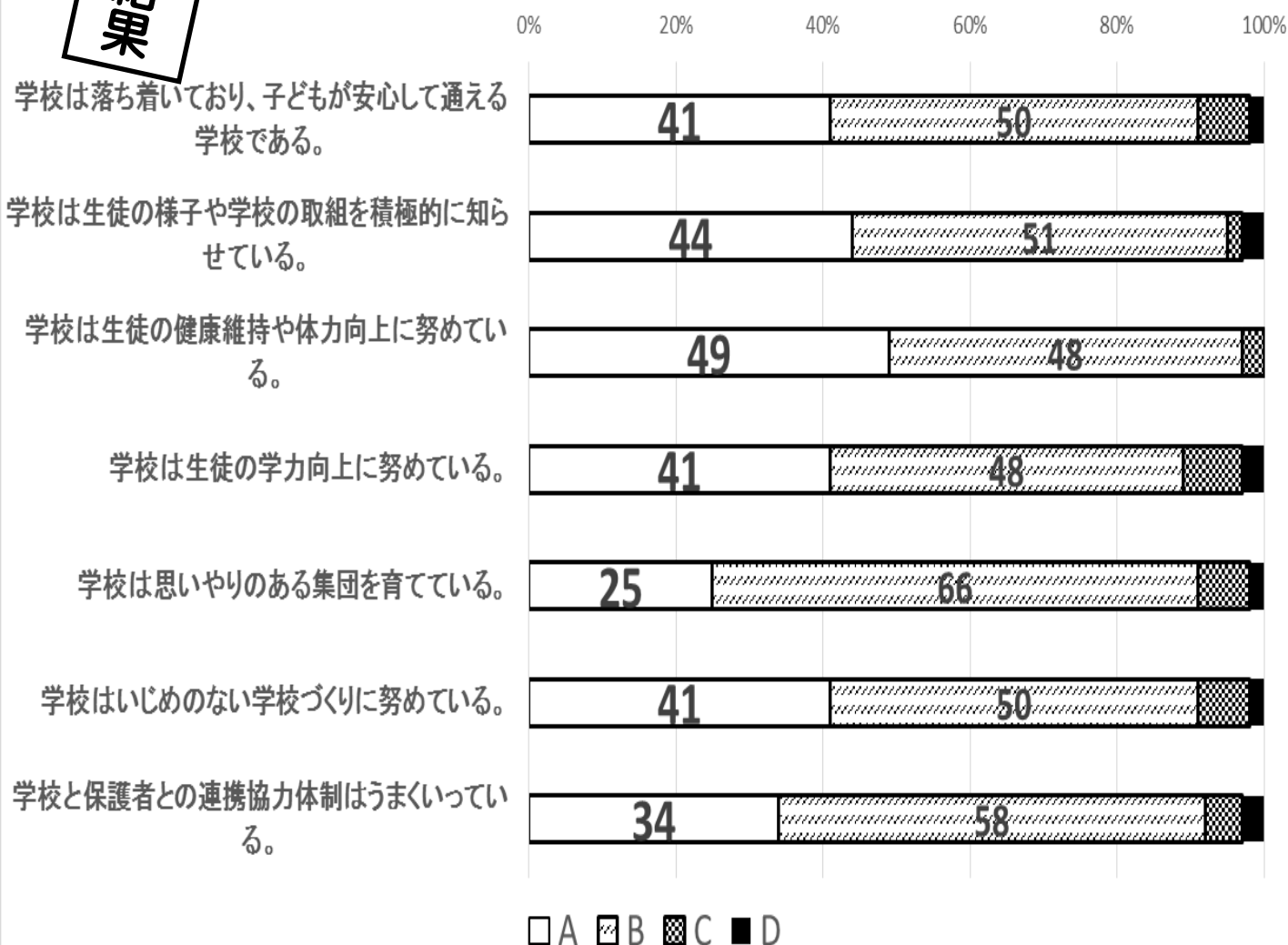
一方で、生徒による回答の「読書の習慣」を見ると、読書の習慣がない割合が前期 15.3%から後期 28.9%に増えたことが課題です。また、保護者による回答の「子どもは自分からあいさつする」の割合が前期 50.8%から後期 39.3%に下がり、生徒による回答との間にズレが見られました。

今後も「いじめのない学校づくり」そして、「安心して通える学校づくり」に取り組めます。

前期学校評価から② 「保護者のみなさんからの回答」

前期
結果

学校の取組について(保護者からの回答) パーセンテージ



保護者の皆さんからいただいた評価回答の一部を上にご紹介します。ほとんど全ての項目で A 評価と B 評価の合計値が 90% を越える好評価となりました。「学力向上」や「思いやりのある集団づくり」、そして「保護者との連携協力体制の充実」などでは、保護者の皆さんの期待に一層応えていくことができるように、今後も充実に繋げていきます。

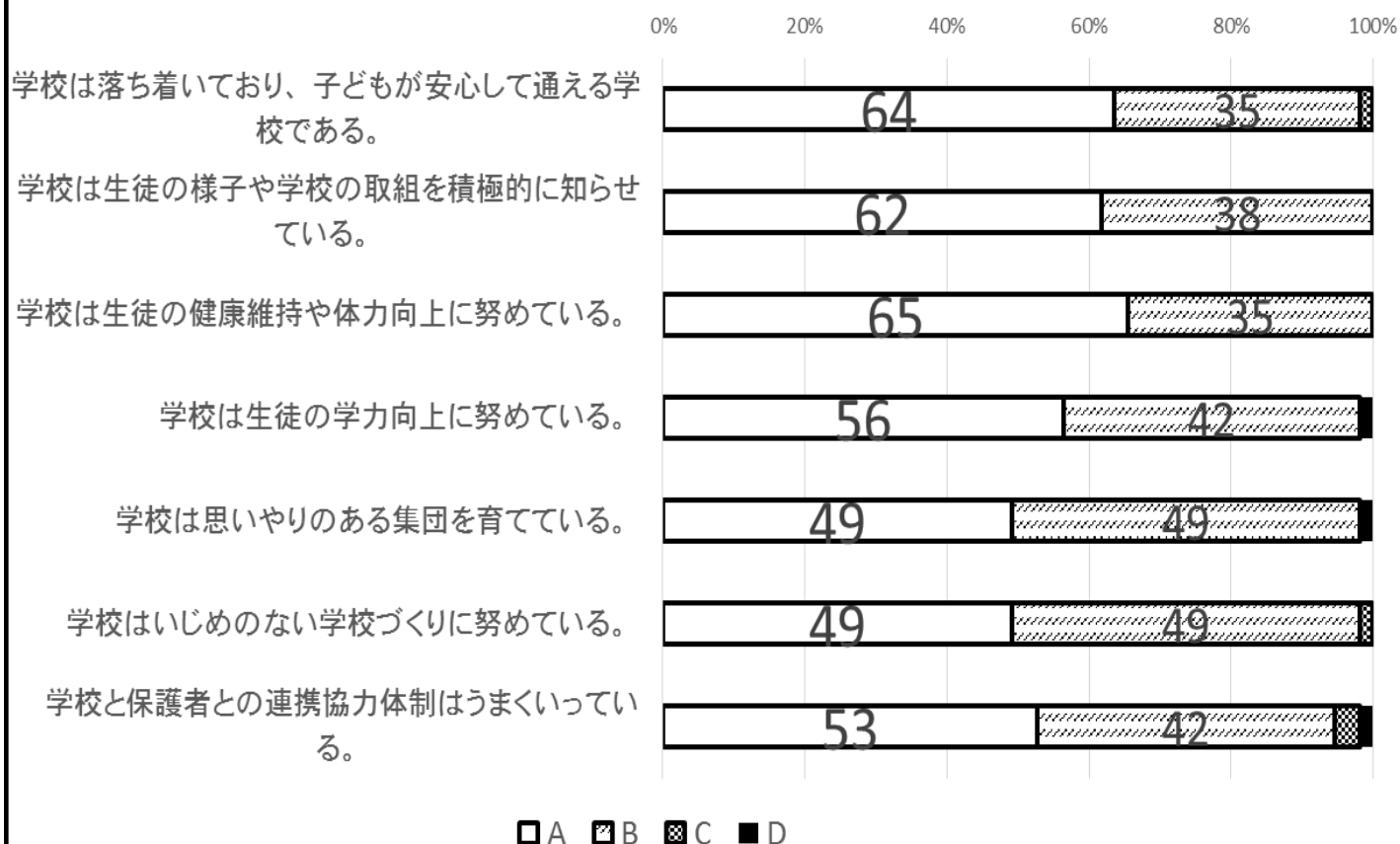
《保護者のみなさんの声》

- 毎日、学校での様子を楽しそうに話してくれます。友人関係も安定しているようで、笑顔で登校しています。
- 通学時のカバンが重く、自転車での安全な走行ができないのではないかと思います。もう少し軽減できないでしょうか。
- 宿題を出してほしいです。
- 勉強が苦手で、今まで分からないままにしてきたことをそのままにしていたりするので、補習などの時間を増やしてほしいです。
- ホームページを更新して、学校の様子を知らせてほしいです。

前期評価結果のページは、学校だより第9号(8月29日発行)に掲載したものと同じです。

後期学校評価から② 「保護者のみなさんからの回答」

平成29年度後期 学校の取組について(保護者からの回答) パーセンテージ



保護者の皆さんからいただいた評価回答の一部を上にご紹介します。ほとんど全ての項目で A 評価と B 評価の合計値が 90% を越えました。7 項目全てで A 評価回答の割合が前期を上回り、特に「思いやりのある集団づくり」や「保護者との連携協力体制」では、前期の数値を大きく上回りました。

また、上の 7 項目以外の回答では、ブログで学校の取組を紹介する「佐々物語 H29」の更新を 8 月末から徐々に再開できたことが、「学校の取組を発信している」の A 評価の向上（前期 44%、後期 62%）に表れたと考えています。

今後も、たよりやホームページを通して、生徒の活躍を保護者のみなさんや地域のみなさんに伝えていきます。

《保護者のみなさんの声》

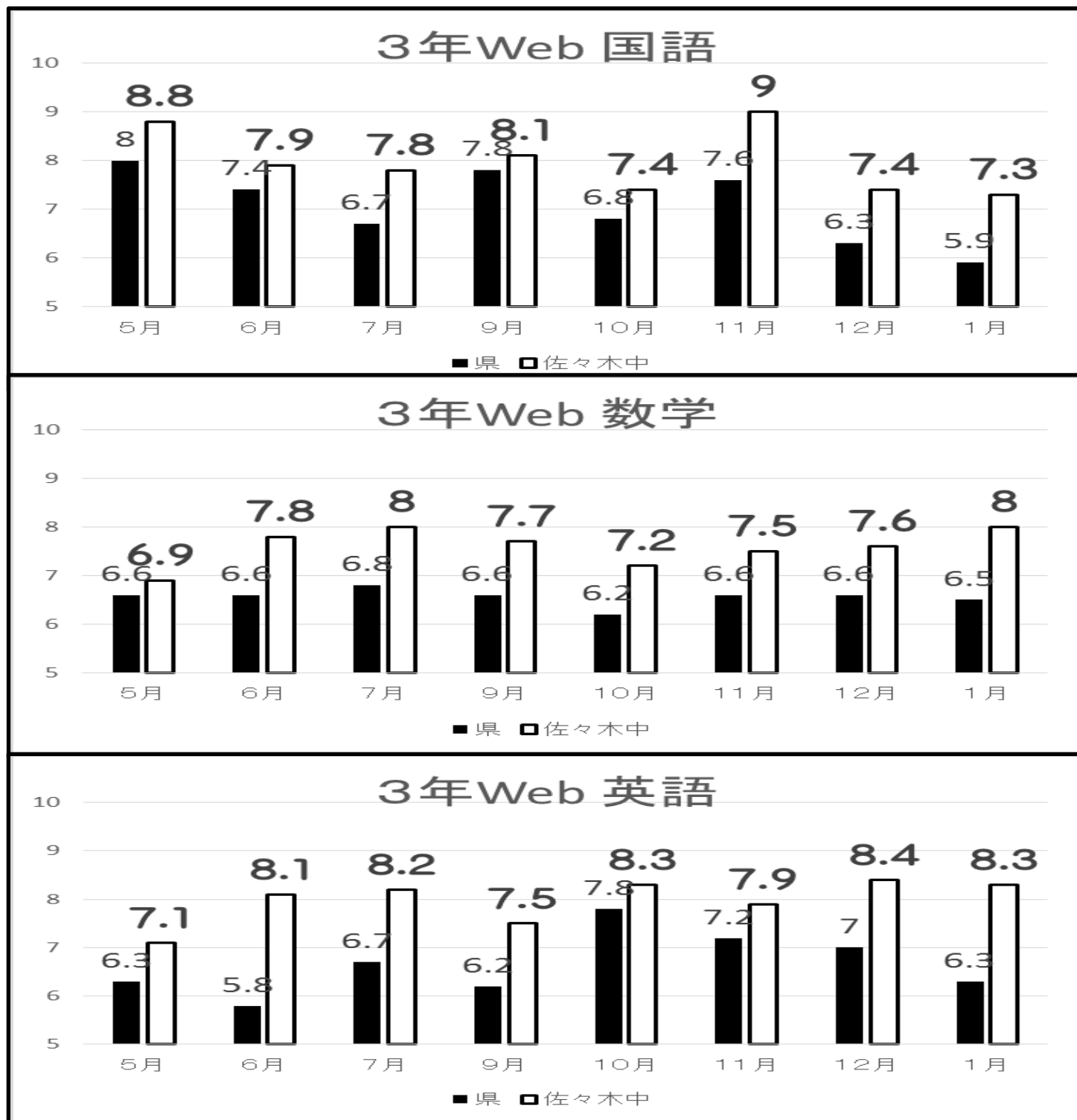
- 中学生になって、本人の意識が変わった様子が見られます。
- 佐々木中学校は素晴らしい学校です。今後ご指導よろしくお願いします。
- 学校だよりでは、生徒の様子が写真入りでとても読み応えがあります。いつも楽しみにしています。
- ホームページが更新されるようになり、予定なども書いてあってとてもよいです。
- 今後も、行事やその日にあったこと、生徒の様子や翌週の予定などを「佐々物語」で伝えてください。
- 教職員が生徒に一生懸命にかかわっておられることが伝わってきて、ありがたいと感謝しています。
- メディアに関わる教育など、市内の近隣の大学や短大の協力を得たり、お話を聞いたりという機会を設けるのもいいのではないかと思います。

3年生が、今年度も Web 診断で毎回好成績を収めました

1月をもって、3年生が取り組んできた3年間のWeb診断が終わりました。毎月のWeb（国語・数学・英語）では、3年生がいつも好成績を収めてきました。（1年生と2年生を対象としたWeb診断は、今年度末まであと2回（2月と3月）実施されます。来年度も引き続き行われます。）

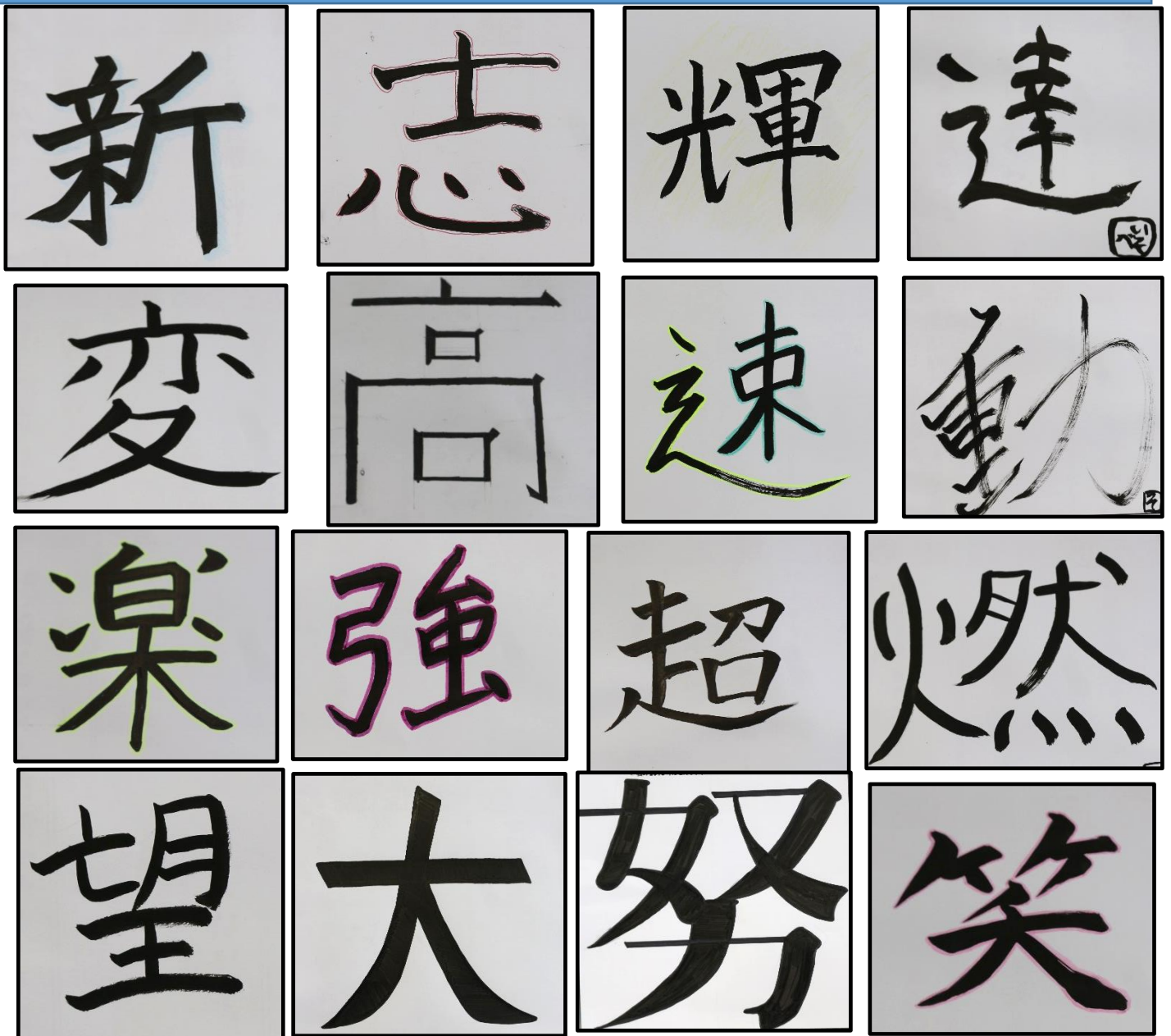
今年の結果（下の表）を見ても、3年生は毎月、県全体の平均値を上回る結果を残してきました。3年生は学校生活でも生徒会活動でも全校を引っ張って来てくれましたが、下の結果の通り、学力面でも、1年生・2年生に「中学生として学習に真剣に取り組む姿勢」を見せてくれました。

受験シーズンが到来しました。3年生のみなさん、希望進路実現に向けがんばってください。



1、2年生の今年度のWeb診断の結果の推移については、学校だより3月号でお伝えします。

3年生 「2018 年、決意の一字」



3年女子 NA 春からは高校生になるので、目立つとかではなくても、何かで役に立てたり、記憶に残ったりするような日々を送りたいと思い、「輝」にしました。中学校で挑戦できなかったことにも挑戦して、大人になった時にあの頃輝いていたなと思えるようにしたいです。

3年男子 YS 僕は、自分には意思が弱いところがあると思うので、新しい環境に変わったら、強い意志をもって自分の意見を主張できたらと思って、この「志」という漢字にしました。

3年男子 GH 僕は、課題を「早」く提出すること、部活動で「速」いタイムを出すことを目標にする1年にする！という思いから、「速」という漢字を選びました。「早」く高校で新しい友達をつくりたいという思いも含まれています。

3年女子 IS 今年は新たに始まる高校生活があり、部活動があり、勉強があるので、気持ちを新たに何事にも挑戦し、2017年以上に濃い1年を過ごしたいので、「新」にしました。友達もたくさんつくって楽しい高校生活を送りたいです。

3年男子 WK 今年は「高」校生なって、様々なことで「高」い場所に挑戦したいので。この漢字にしました。

3年男子 TI 今年は受験があり、誘惑に負けず、熱く燃えるように受験勉強に取り組むことと、何事にも全力で取り組む燃える男になりたいから「燃」という漢字を選びました。

1月の学校生活

大雪や寒さに負けず頑張ろう！



2年生技術科の授業



2年生 修学旅行での準備が本格的にスタート



3年生 小グループでの話し合い



お昼休みに雪上で楽しむ3年生



新しい年も、武道場や音楽室でがんばる部活動



お昼休みの体育館



ガンバレ！佐中サーキット



1月12日(金)には、大雪が積もりました